

「協定福祉避難所」の機器整備助成金を受けました。



組み立て式トイレ（車いす対応型）1台

仮設トイレとして多機能を有しながら、簡易トイレ並みの組立てやすさ



ファミリールーム（ワンタッチパーテーション）20台

災害時、屋内での集団避難生活における被災者のプライバシーを確保



防災用シートイン毛布 50枚

難燃マイクロファイバー毛布で真空パックされ衛生的な毛布

この度、（公財）日本財団さまから2024年度助成事業において、当法人が運営する学園前西特別養護老人ホームが奈良市より協定福祉避難所の指定を受けていることをうけ、福祉避難所に必要となる機器整備に係る助成金を受けました。

この助成支援を受けることにより、現時点よりも福祉避難所の整備が一步前進させることができました。日本財団さまには、心より感謝申し上げます。

令和3年の災害対策基本法の改正により、避難行動要支援者について、個別避難計画を作成することは市町村の努力義務とされており、各市町村の方では策定に努力されていると思われます。しかしながら、現時点では都道府県単位で奈良県は全国ワーストです。

奈良県は幸いにも災害が少ないと感じている方も多いと思われそうですが、協定福祉避難所の指定を受けている当法人としては、少しでも個別避難計画の策定率が上がる努力を継続して取り組んでいきたいと考えます。

そして、当法人も高齢者施設でありますので、万一の災害に備え、できる限りの備えを日々意識しながら、事業継続計画（BCP）の改良を重ね、訓練の実施を行います。

社会福祉法人奈良苑
防火管理者・BCP策定担当

これまでの災害に対する環境整備・備蓄等の進捗状況をご報告いたします。（裏面参照）

福祉避難所とは…

福祉避難所は、一般の避難所では避難生活が困難な要配慮者（※）が避難する施設です。

（※）要配慮者…災害時において、高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮が必要な方（その他の者：妊産婦、傷病者、内部障害者、難病患者等）

避難の流れ（概要）



① 災害発生により被災された方は、個々の判断や奈良市からの避難指示を受け、開設された指定避難所（小学校の体育館や公民館等）に避難します。

② 奈良市は、指定避難所等で収集した避難者情報等をもとに、保健師等により福祉避難所への受入れを必要とする対象者の状態の把握に努めます。**また、各施設の被災状況を把握し、福祉避難所の開設可否を確認します。**

協定施設において福祉避難所を開設する場合は、把握した対象者数などの情報を共有し、施設に対し要配慮者とその家族等の受入要請を行います。

③ 奈良市は、受入施設決定後、速やかに要配慮者本人やその家族等に連絡します。この後、受入体制が整えば、要配慮者を家族等の支援により移送していただきます。



• **災害発生後、直ちに開設されるものではないため、まずは、指定避難所（小学校体育館等）に、避難してください。**

• 福祉避難所は、奈良市（災害対策本部）が災害の状況に基づき、必要性や協定を結んでいる施設の被害状況を判断して開設する避難所です。

災害時の環境整備等進捗状況報告

令和6年5月

平成25年4月奈良市と災害時における福祉避難所の指定協定を締結した。この時点では、現在ほど災害時の危機管理対策の取り組みは行っておらず、事業継続計画（BCP）という言葉も一般的でなかった。最低限の備蓄品（備蓄食料・簡易トイレセット・毛布等）の用意はしていたが、福祉避難所の開設となった場合、安心して受け入れられる整備状況では無かったと思う。

そして、2018年（平成30年）9月4日に近畿地方を中心に甚大な被害を出す災害が起きた。特に大阪北部を中心にインフラへの影響は大きい被害であったと記憶している。

当施設もこの台風による間接的被害があった。複数の施設を運営している重要拠点エリアで、同日午前11時00分頃に停電となり、復旧した時刻は午後10時00分頃となった。およそ11時間停電となり、電力会社や電気保守業者と終日連絡が繋がらない状況となった。

施設では、停電によりライフライン（水・電気・ガス）のインフラ設備が完全に使用できなくなったり、水については受水槽（高架水槽あり）設備の為、タンク内の水だけは使用することができた。しかし、約3時間後には断水となる。また、電気もガスもが無いため、エレベーターは使用できず、何とか使用できる食材で昼食・夕食を真っ暗な非常階段で何度も往復し食事提供した。

ボイラーも使用できない為、お湯が沸かせず入浴は中止となった。

施設職員がこの状況下で一番困ったことは『水である』。水がないということがこれほど大変な状況になるのだとそれまで気づかなかった。当たり前であるが、水が止まると飲料水の確保ができない、トイレを流せない、食事提供もままならない状況となり、何もかもがストップしてしまうことが良く分かった。

災害は、直接的でなくとも間接的にでも大きく影響するということがわかり、少しずつであるが、災害対策の環境整備に取り組み今日に至っている。

学園前西特別養護老人ホーム

施設長 松田壮広

（整備状況） ※令和4年3月 事業継続計画（BCP）策定 ※現在も都度改良中

整備機器写真	数量	対策項目	対策設備	得ることができる内容
	1	電気	受水槽3基のポンプ設備 本館1号機エレベーターのみ	敷地内各施設での水の供給可能 ストレッチャーの移動手段確保
	1	電気	本館ボイラー・貯湯槽設備 本館給食室内のIH電気設備 本館ガス供給設備	お湯の確保にて入浴可能 調理器具の稼動にて食事提供可能 お湯・調理器具の稼動にて食事提供可能
	6	電気	食材保管用冷蔵庫2台分・冷凍庫3台分 共同フロアの電気 非常用電源コンセント	食材保管が可能 共同フロアの電気確保 携帯電話等の生活電気の確保
	複数	電気	懐中電灯・ランタン（電池タイプ） イベント用照明器具 携帯コード・USB接続コンセント ※ポータブル発電機と併用	生活照明の確保 生活照明の確保 通信手段の電源確保
	複数	食事	U字溝を逆さにした釜戸 炊き出し用の薪 大きな鉄鍋 一斗缶	食事の調理 炊き出し・焚き火用
	複数	トイレ	大型ビニールシート 組み立て式トイレ（車いす対応型）1台 大型ポリバケツ	排泄物置き場 屋外でのプライバシー確保 排泄物置き場
	複数	場所確保	イベント用大型テント イベント用小型テント ファミリールーム	屋外での活動場の確保 屋外での活動場の確保 避難生活におけるプライバシー確保
	各50	寝具	災害用寝袋 災害用毛布	寝具 寝具
	複数	燃料	ガソリン携行缶 軽油携行タンク 各種電池一式 車両燃料採取ポンプ	燃料・電池
		食材	食料品（5日分×200人分×3食分）	食料品
		飲料水	飲料水（2リットルペットボトル750本 （5日分×200人分×3食分））	飲料水
		生活水	受水槽の活用（飲料用と調整必要） 調理用水（2リットルペットボトル60本）	生活水

※細かな備品写真は省略しています。